

《WE 認証者インタビュー》

WE 認証は高度な専門知識を得るための登竜門 —全社方針と自身の経験を重ねて国際資格勧める—

「日本溶接協会の WE（溶接管理技術者）認証制度は、溶接に関する基礎知識に加え、高度な専門知識を得るための登竜門の位置づけでグループを挙げて活用している」とは、ダイヘン執行役員溶接機事業部長の上山智之氏。同社は溶接機メーカーとして WE 認証ならびに IIW（国際溶接学会）国際溶接技術者資格の取得に向けた積極的な取り組みが目立つ。本号ではその背景と目的を聞いた。

株式会社ダイヘン
執行役員 溶接機事業部長
上山 智之 氏



●グループ内で WE 特別級 6 人、IWE は 9 人取得

ダイヘンでは 2020 年 2 月現在、WE 認証に関して特別級 5 人、1 級は 3 人が取得。IIW に関して IWE（国際溶接エンジニア）9 人、IWT（国際溶接テクノロジスト）は 1 人が取得する。また同社グループで溶接機、切断機、産業用ロボットの販売・保守などを手がけるダイヘンテクノサポート（2018 年 7 月設立）は WE 認証 24 人（特別級 1 人、1 級 5 人、2 級 18 人）に加え、IWE 取得者が 1 人在籍する。

上山氏は資格取得に関する活動の背景をこう説明する。

「営業と技術サービスを担う新会社、ダイヘンテクノサポートの立ち上げに当たり、力を注いだのが営業担当者の『セールスエンジニアリング力の強化』。ベテランと称される世代は相応の製品知識を有していたが、それは長年の営業経験に基づく、いわゆる地に足の着いた溶接に関する知識が土台となっていたから。次の世代の基礎知識習得に関して検討した結果、候補に挙げたのが WE 認証だった。認証取得に向けては個々に勉強することが求められるだけでなく、個々の習得度が目に見えた形で分かることから、講師を招いた社内研修をスタートさせた」

「また近年、溶接構造物自体、材料や継手形状などの変化にともない、従来と異なる環境に対応した溶接機を開発していく流れに呼応して、営業担当者は新型機を的確に使いこなさなければならない。電源制御は分かっている、やはり溶接は冶金学や構造力学などを含め統合した部分を学ぶことが必要不可欠であり、その具体策として、WE 認証の取得は効果がある。さら

に、施工現場の実情を踏まえても、われわれ溶接機メーカーに寄せられる様々な要望に応えるうえで WE 認証の取得は有益であると考えた。最初は 2 級からのチャレンジとなるわけだが、2 級取得者には現状に満足することなく 1 級取得を目指すようハッパを掛ける」

●国際資格取得は将来のためになる

溶接機事業部の溶接技術者が中心となる IIW（国際溶接学会）国際溶接技術者の資格取得に向けた取組みは、上山氏が研究開発部の部長だった 2008 年ごろにさかのぼる。

「研究開発に携わる若手技術者を中心に、海外の販売会社における技術指導の担い手を想定して国際資格の取得を呼び掛けたものの、当時は個々のやる気に依存するところが大きかった」
上山氏はかつて、ダイヘンヨーロッパに溶接エンジニアとして駐在した経験がある。

「欧米の販売拠点において技術サービスを担うローカルスタッフの多くは数十年のキャリアを持ち、古いものから最新機種に至るまで溶接機に関する造詣が深い。例えばそこに日本から息子ほど歳の離れた技術者が訪ねてきて新製品に関する指導を行うとき、多少なりとも説得力に欠けるケースが生じることも予想される。ただ、名刺に IWE などと記されていたら話は異なる。私が 2006 年、大阪大学で学位を取得し、工学博士となって以降、再度訪ねると現地スタッフの態度が明らかに変わった。こうした対応は日本より顕著であり、当時身に染みて感じたことを覚えている」

2013 年より、全社の方針で従業員の資格取得を後押しするようになってから徐々に風向きが変わる。

「当社は溶接のほか、電力、半導体など 7 事業部で構成されるが、各事業に応じた関係資格に加え、事務や財務など個々の担当業務の関係資格をリストアップして取得を勧めた。取得者には報奨金を出すことなども奏功し、溶接関係では 1 級、特別級とステップアップした後、国際資格を目指す技術者が増えた。報奨金制度は現在も継続している」

社内のバックアップ、そして、自身の経験も重なり、上山氏は国際資格取得をさらに勧めるようになった。

「欧米の現地スタッフやユーザーは IWE であることを確認すると、専門家が来たと捉え、その説明にも理解を示す。したがって、若い世代にはドクターに準じる国際資格取得は将来のためになると繰り返し説き、現在、研究開発部では 8 人が取得している。社会人ドクターを目指す者を含め部内の多くが資格取得を目標に掲げ自己研鑽に努めている」

上山氏は今後、WE 認証ならびに国際資格を多数取得するところを強みにした事業を展開していきたいと抱負を語る。

「将来を見据えるまでもなく足元においても、溶接機メーカーとしては単体の溶接機を販売することにとどまらず、トータルでソリューション提供していくことが重要と考えている。技術者、営業担当者双方にとって、勉強するきっかけとなり、目標設定にもつながる日本溶接協会ならびに IIW の各認証・資格制度は今後も大いに活用していく方針である」